

Suma Tomogaoka 通信



兵庫県立須磨友が丘高等学校 総合学科推進部
令和2年度 第5号 3/18

38 回生 1 年次 職業研究講演会

1 年次の「産業社会と人間」では、例年職場訪問を実施していますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で訪問ができていませんでした。その代替りのプログラムとして、1 月 2 9 日（金）、各業界でご活躍されている方々を講師としてお招きし、職業研究講演会を行いました。講演会では、仕事の内容ややりがい、そして社会とどのように関わっているのかということを語っていただきました。

さらに、講座ごとに工夫が凝らされた演習も行われ、生徒たちは意欲的に取り組む様子が見られました。講師の方からいただいていた事前課題に取り組むことで、当日の学びがより深まったように思います。これらの活動を通して、「働く」ことの意味や自身のキャリアを考えるきっかけを得ることができ、大変貴重な時間になりました。講師の方々には、コロナ禍にもかかわらず、大変お世話になりました。

〈生徒の感想〉

◆今回、講師の方のお話を聞いて、人生にはいくつか出来事があって、それが今に繋がっているんだと学びました。だから、これから経験していくことや、やってみたいと思ったことはためらわず挑戦していこうと思いました。

【オリタ企画】

◆今日のお話を通じて感じたことは、弁護士の方は人々の心の支えになっているんだと思いました。自分の中の弁護士のイメージは裁判の時に証言をしているイメージが強かったですが、実際には仕事上のトラブルなどで困っている人の話を聞いてアドバイスをするなど、日常生活でも人々の支えになっていることがわかりました。

【神戸合同法律事務所】

◆講師の方のお話を聞いて、パティシエになるのは難しくないけど、パティシエになってからこの仕事を続けることや、仕事内容の大変さに耐えられるかがとても難しいんだと思った。そして、その大変さに耐えられるように体力をつけたり、多少嫌なことでも乗り越えられるように努力したいと思った。

【パティシエニシカワケンジ】

◆とてもとても濃い時間になった。実際の看護師さんの話はリアルで、心に響くお話を聞かせてもらうことによって想像もしやすくなったし、看護師のやりがい、大変さを知ることができた。どんな時も患者さんの命と向き合いながらお仕事をする看護師さんは少し重い仕事なのかと思っていたけど、患者さんの人としてのあたたかい部分に触れることができる素敵な仕事だと感じる事ができた。

【新須磨透析クリニック】

◆私の中で最も印象に残ったことは講師の方の笑顔だ。畑さんは今まで出会った誰よりも楽しそうだった。これは大げさではなく、心からそう思った。仕事内容はしんどそうなものも多くあるのに、全部楽しそうなもの感じた。今日のお話を聞いて、建築士としての仕事の魅力をすごく感じた。だがそれ以上に、楽しんで行う仕事の素晴らしさを教わった。

【畑建築設計事務所】

◇日本旅行◇



◇センサーズ・アンド・ワークス◇



◇JA 兵庫六甲福祉会◇



◇パレクセルインターナショナル◇



◇オリタ企画◇



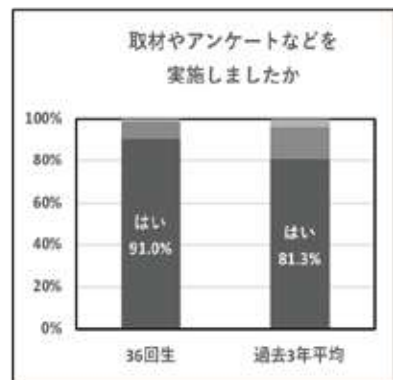
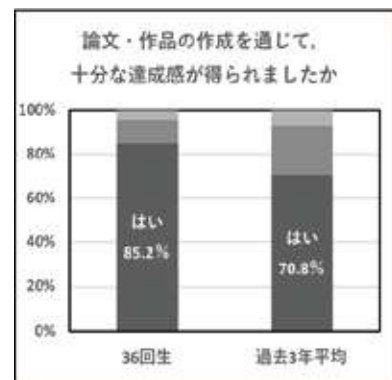
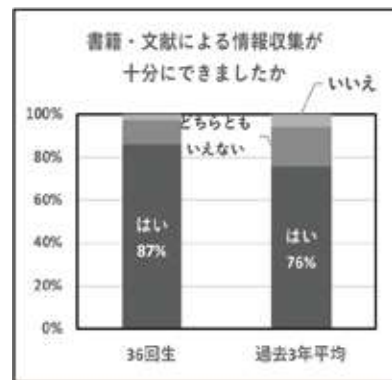
◇神戸合同法律事務所◇

36 回生 3 年次 課題研究への取り組みを振り返って ～卒業時アンケートより

36 回生から 2 年次の総合的な学習の時間が週 1 時間から 2 時間になり、6 つの系列に分かれたゼミでの課題研究が始まりました。毎年卒業時に課題研究についてのアンケートを取っているのですが、今回の結果はこの体制で実施することへの評価の 1 つになります。

例年、数値の大きな変化は見られないのですが、今回は過去 3 年間の平均に比べると、すべての項目で「はい」の割合が増えていました。特に、情報収集・取材やアンケートの実施・論文の書き方について実行できたと感じている生徒の割合が顕著に増加しており、研究前に各系列で研究の手法を学んだり練習したりした効果が表れたのではないかと考えられます。研究を終えた達成感も高く、須磨友が丘高校の課題研究として満足のいく結果を出せたのではないかと思います。

課題研究を通してついた力の自己評価の結果としても「プレゼン力」「情報収集力」を挙げる生徒がどのクラスでも半数、「課題解決力」は 4 分の 1 程度おり、生徒の感想からもこれらの力に自信がついたことがうかがえます。



「表現すること・伝えること」は総合学科の学びの強みとして以前より言われていたのですが、課題研究の、問を立て、解決するために情報を集め、分析し、考察して結論を出すという流れを理解するということも身につけてきたのだと思います。

37 回生は論文の提出が終わり、3 年次での発表を残すのみとなりました。発表原稿を作りながら自分の中でさらに研究が深まることもたびたびあります。そこで伝えたいことがより明確になります。37 回生の発表も大変楽しみです。また、38 回生は今からいよいよ研究に取り組みますが、まずは手法を勉強するところからになります。生み出す苦しみもありますが、新しいことにチャレンジする喜びはそれを超えます。存分に研究を楽しんでください。

(全アンケートの結果は、来年度に発行の「1 年のあゆみ」に掲載されます)

37 回生 2 年次 課題研究

本年度は、新型コロナウイルスによる休校により 4・5 月に行う予定だったことを短縮する形でスタートしましたが、2 月のポスターセッションを行わなかったこともあり、思ったよりもじっくりと論文作成に取り組むことができました。授業の最後に「課題研究で身についた力」について作文してもらったので、その一部を紹介したいと思います。

『この課題研究を通して、私が特に身についたと思う力は、多面的思考力だ。(中略) 様々な人の意見を知り、自分とは違う意見でも少しその考えに踏み込んでみると、納得できることや新たな考えが生まれたりした経験を通して、自分だけの考えにとどまらず周りの意見に心を傾けることや自分から知っていこうとする行動力の大切さを学ぶことができた。これからの時代に必要になってくるのは、多様性を柔軟に受け入れる力だと思う。この研究を通して身に付けた力を、今後も継続していくことで、どのような場面にも対応できるような大人になっていきたいと思う。』

来年度は、本年度の研究成果を発表する機会があります。2 年次生は、引き続き頑張りましょう。

旅立ちに寄せて

春を感じる暖かな日差しの中、3 月 1 日（月）に第 36 回卒業証書授与式が挙行政され、232 名の生徒が巣立っていきました。新型コロナウイルス感染症の影響で、文化祭等の行事が中止になったり、最後の部活動の試合やコンクールが中止になったり、大学入試改革の混乱に巻き込まれたり、と様々なことがありましたが、そのような苦難にも負けず、元気いっぱい頑張ってきた学年です。これからも、きっと素晴らしい未来を切り拓いていってくれることと期待しています。

